

令和5年度(2023年度)全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年4月18日に「令和5年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。このたび、鎌倉市全体の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要をお知らせします。

1 調査の概要

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(令和5年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領:文部科学省から)

(2) 実施状況

○実施年月日 令和5年4月18日(火)

※中学校「英語」の「話すこと」は4月21日(金)～5月10日(水)の期間の指定された日に学校ごとに実施

○実施内容 ①小学校の教科に関する調査(国語・算数)

②中学校の教科に関する調査(国語・数学・英語)

③児童生徒質問紙調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等)

○実施児童・生徒数

小学校6年生 16校 1,210人

中学校3年生 9校 1,025人

(3) 調査結果の見方

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることから、児童生徒が身に付けるべき学力の全てを表すものではない。

※ 使用している用語についての説明は次のとおり。

○平均正答数 … 児童及び生徒の正答数の平均

○平均正答率 … 児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示

○中央値 …… 集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと。
平均値とともに集団における代表値としてとらえられます。

○標準偏差 …… 集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。

標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値がすべて同じ)ことを意味します。

2 結果全体の概要

(1) 教科に関する調査(平均正答率:単位%)

○全体の傾向

小学校		国語	算数
鎌倉市	R5	65	65
	R4	64	65
神奈川県 (公立)	R5	66	63
	R4	65	64
全国 (公立)	R5	67.2	62.5
	R4	65.6	63.2

中学校		国語	数学	英語
鎌倉市	R5	73	59	56
	R4	74	61	実施せず
神奈川県 (公立)	R5	70	52	50
	R4	69	53	実施せず
全国 (公立)	R5	69.8	51.0	45.6
	R4	69.0	51.2	実施せず

小学校では、全国・県の公立平均正答率と概ね変わらない結果であった。中学校では、全国・県と比べ公立平均正答率を上回っており、良好であったと言える。バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が継続的に図られていると考えられる。

3 教科別概要と分析、改善に向けて

※記号について（神奈川県教育委員会の分析基準に準拠）

◇・・・全国平均正答率より5ポイント以上高かった設問

◆・・・全国平均正答率より5ポイント以上低かった設問

※領域別分析の文末（ ）内に問題番号、市平均正答率

【小学校 国語】

《概要》

全体の平均正答率は全国平均と大きく変わらない。

「話すこと・聞くこと」については、全国に比べ無解答率が高く、特に目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題の正答率が低かった。

「書くこと」については、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率がやや低い。

「読むこと」については、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均に比べて低かった。

正答率は多くの問題で全国平均を下回っており、また、問題後半の無解答率が高く、回答時間が足りなかったこともうかがえる。

《領域別分析》

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇該当なし

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。(1三(1)ア)(43.8%)

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

漢字を適切に使うことができるようにするために、日常の学習の中で必要に応じて漢字を使って文章を書く学習の充実。

○学習例

自分の書いた文章について、適切に漢字を使用して書いているかを見直したり、ICT機器を活用して文章を作成する場合に適切に変換したりするなどの学習。

我が国の言語文化に関する事項

該当問題なし

話すこと・聞くこと

◇該当なし

◆目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。(3二)(61.7%)

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる指導の充実。

○学習例

相手が自分に伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確にして聞く学習や、話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめる学習。

書くこと

◇該当なし

◆該当なし

読むこと

◇該当なし

◆文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。(2四)(51.2%)

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる指導の充実。

○学習例

〔知識及び技能〕の「情報の整理」の指導事項との関連を図り、複数の資料を読んで理解したことを整理したり、理解したことの中から既存の知識などに結び付くことを考えたりしながら、自分の考えをまとめる学習。

自分の考えをまとめる際には、〔知識及び技能〕の(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「思考に関わる語句」を使うことなどに関連を図り、理解したことと考えたこととの関係が分かるようにまとめる学習。

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」に係る日ごろの様々な言語活動を丁寧に行っていききたい。

漢字の学習については、日常の学習の中で既習の漢字を使って文書を書くよう働きかけたり、自分が書いた文章を読み直して漢字に直したりすることや、新出漢字の読み方や意味を考え、文章中での正しい使い方を習得できるような基礎的な学習の定着を図る学習を取り入れることが必要である。

「話すこと・聞くこと」については、話し合い活動や意見交換、インタビュー活動など、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる学習を他教科とも関連付けながら日ごろから意図的に積み重ねていきたい。

全体的に無解答率が高くなった理由として、問題の内容を理解できていない児童が多くいることも考えられるので、そのような児童を取り残すことないように一人一人をよく見取り、指導に生かしていくことが必要である。

【小学校 算数】

《概要》

全体の平均正答率は全国平均と大きく変わらない。学習指導要領の領域では、「変化と関係」の正答率が高く、伴って変わる数量の関係の理解が身につけていることが伺える。「図形」は全国平均をやや上回っているが、正答率が低い。

《領域別分析》

数と計算

◇該当なし

◆該当なし

図形

◇正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる(2(3))(34.7%)

◇高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる(2(4))(27.3%)

◆該当なし

変化と関係

◇百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる(4(1))(56.7%)

◆該当なし

データの活用

◇該当なし

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式のいずれも県や全国の平均を上回っており、概ね基本的・

基礎的な知識・技能が定着しているものと考えられる。学習指導要領の「図形」の領域では、全国平均は上回ってはいるものの全国と同様に正答率は低く、目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しをたてることができるようにする指導や、三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さとの面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにする指導の充実が必要である。

【中学校 国語】

《概要》

学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式の各分類において、概ね県や全国の平均を上回っている。

情報の扱い方に関する事項と読むことの項目で特に正答率が高く、情報と情報の関係について理解する力と文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する力が十分に身につけていることが分かる。

記述式の問題の正答率が、県や全国の平均を上回っており、聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる力や、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える力を身につけていると評価できる。

一方、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題や、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかを見る問題については県、全国の正答率を下回っている。

《領域別分析》

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇該当なし

◆該当なし

情報の扱いに関する事項

◇『『判じ絵』とは何か』と見出しをつけた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く（3三）（70.9%）

◆該当なし

我が国の言語文化に関する事項

◇該当なし

◆歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）（4一）（75.0%）

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

音読に必要な文語のきまりについて理解させる指導の充実。

○学習例

歴史的仮名遣いで書かれている言葉をどのように読むのかを確認し、その規則性について整理する学習。

話すこと

◇該当なし

◆該当なし

書くこと

◇レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する(3一)(59.5%)

◆該当なし

読むこと

◇二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する(2二)(70.8%)

◇それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する

(2三)(80.6%)

◇現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く(4三)(56.7%)

◆該当なし

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇該当なし

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

漢字の学習については、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導する必要がある。また、1人1台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養うことが重要である。

また、古典を取り扱う授業を中心に、様々な時代の言葉に触れる機会を持ち、現代の言葉の成り立ちや、古文や漢文とのつながりについても意識を深めるような学習に取り組んでいく。

上記のような言語とその文化に係る事項について、知識の増強と確かな定着を図るとともに、本調査で良好な結果であった各項についても、更なる学力の向上を目指し、充実した授業の展開に引き続き取り組んでいくことが必要である。

【中学校 数学】

《概要》

学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式のいずれも県や全国の平均を上回った。

数と式の分野の正答率が高く、全国平均を大きく上回っており、特に数と整式の乗法の計算が身につけていることがわかる。また、記述式の正答率が全国平均に比べて大きく上回っているが、無解答率が高い。

《領域別分析》

数と式

- ◇自然数の意味を理解しているかどうかをみる(1)(54.9%)
- ◇数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる(2)(86.9%)
- ◇目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる(6(2))(70%)
- ◇結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる(6(3))(52.2%)
- ◆該当なし

図形

- ◇空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる(3)(43.7%)
- ◇ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる(9(1))(42.4%)
- ◇条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる(9(2))(44.1%)
- ◆該当なし

関数

- ◇反比例の意味を理解しているかどうかをみる(4)(50.6%)
- ◇与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる(8(1))(67.2%)
- ◇事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる(8(2))(68.7%)
- ◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる(8(3))(49.4%)
- ◆該当なし

データの活用

- ◇累積度数の意味を理解しているかどうかをみる(5)(51.1%)
- ◇複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる(7(2))(43.1%)
- ◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

本調査から、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式のいずれも県や全国の平均を上回ったことから、概ね基礎的・基本的な力が定着しているものと考えられる。今後も学習内容を確実に定着させ、さらに充実した指導の工夫改善を進める。

学習指導要領の領域については、図形の正答率が低く、特に記述式の問題形式では無解答率も高くなっている。

事柄が成り立つことを証明する際に、与えられた条件から導く過程を考えるとといった構想を立てる活動を取り入れ、言葉の意味をより明確にし、複数の選択肢の中からでもよりふさわしいものを自信をもって選ぶことができるようになるよう、指導方法を改善する。

【中学校 英語】

《概要》

学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式のいずれも県や全国の平均を上回った。

学習指導要領の領域別では、「聞くこと」、「読むこと」の正答率が高く、全国平均を大きく上回っている。しかし、「話すこと [やりとり]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」は、全国平均を上回ってはいるものの、平均正答率が低い。また、「書くこと」、「話すこと」は、「聞くこと」、「読むこと」に比べて無解答率も高くなっている。

《領域別分析》

聞くこと

- ◇情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる(1(1))(89.9%)、(1(2))(76.1%)、(1(3))(59.4%)
- ◇日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる(2)(74.2%)、(3)(49.7%)
- ◇社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる(4)(59.9%)
- ◆該当なし

読むこと

- ◇情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる(5(1))(63.6%)
- ◇「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる(5(2))(77.8%)
- ◇日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる(6)(50.0%)
- ◇文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる(7(1))(70.7%)

◇日常的な話題について、短い文章の概要をとらえることができるかどうかをみる(7(2))(42.0%)

◇社会的な話題について、短い文章の概要をとらえることができるかどうかをみる(8(1))(63.3%)

◆該当なし

書くこと

◇社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる(8(2))(29.6%)

◇未来表現(be going to)の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる(9(1)①)(58.0%)

◇疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる(9(1)②)(43.7%)

◇「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる(9(2))(40.8%)

◆該当なし

話すこと [やり取り]

◇日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる(1(1))(25.8%)

◇日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べあうことができるかどうかをみる(1(4))(27.6%)

◆該当なし

話すこと [発表]

◇該当なし

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式のいずれも県や全国の平均を上回ったことから、概ね基礎的・基本的な力が定着しているものと考えられる。今後も学習内容を確実に定着させ、さらに充実した指導の工夫改善を進める。

「書くこと」、「話すこと [やり取り、発表]」の正答率が低く、特に「話すこと」では無解答率も高い。

「書くこと」、「話すこと」ともに、普段の学習において慣れていないことが考えられるため、小学校での学習を生かして即興で伝え合う指導、生徒から正しい表現を引き出したり生徒自身が誤りに気付いたりするよう促す指導、言語活動を通して学習したことを別の場面で活用する事ができるようになるよう、5技能のバランスを意識しながら複数の領域を統合した言語活動の充実を図るなどの指導方法が考えられる。

また、「話すこと」に関しては、正しい文法を重視するあまり、小さなミスを気にしたり、生徒が委縮してしまったりして自由に表現できないという面を一層改善し、闊達にコミュニケーションできる力を伸ばすことにも注力していくことが必要である。

4 児童生徒質問紙の特徴及び課題と改善に向けて

※記号について

◇良好と認められる点 ◆課題のある点

※文末（ ）内は設問番号

【児童質問紙 小学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

◇自分には、良いところがあると思いますかという質問に、当てはまると答えた児童の割合は48.4%で全国の42.6%より高い。(4)

◇読書は好きですかという質問に、当てはまると答えた児童の割合は45.1%で、全国の39.4%より高い。(24)

◆先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますかという質問に、当てはまると答えた児童の割合は36.9%で全国の49.9%より低い。(5)

◎学校生活について

◇5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたかという質問に、発表していたと答えた児童の割合は34.3%で、全国の24.8%より高い。(32)

◇授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますかという質問に、当てはまると答えた児童の割合は44.2%で、全国の39.0%より高い。(38)

◆5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたかという質問に、ほぼ毎日と答えた児童の割合は16.0%で、全国より28.2%より低い。(29)

◆学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めると答えた児童の割合は69.2%で、全国の77.2%より低い。(40)

◆学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると答えた児童の割合は70.7%で、全国の75.7%より低い。(41)

◆道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると答えた児童の割合は78.2%で、全国の83.6%より低い。(42)

◆国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいると答えた児童の割合は78.0%で、全国の83.9%より低い。(47)

◆英語の勉強は好きと答えた児童の割合は62.0%で、全国の69.3%より低い。(55)

◎家庭生活について

◇学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますかという質問に、2時間以上と答えた児童の割合は34.5%で、全国の25.6%より高い。(17)

◇土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますかという質問に、3時間以上と答えた児童の割合は20.5%で、全国の13.3%より高い。(18)

◇学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間読書をしますかという質問に、1時間以上と答えた児童の割合は25.9%で、全国の18.5%より高い。(20)

◇あなたの家には、およそどれくらいの本がありますかという質問に、101冊以上と答えた児童の割合は55.4%で、全国の33.2%より高い。(22)

◇これまで、学校の授業以外で英語を使う機会があったと答えた児童の割合は53.8%で、全国の46.5%より高い。(58)

◎地域生活について

◆地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと答えた児童の割合は69.3%で、全国の76.8%より低い。(26)

◆日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うと答えた児童の割合は72.1%で、全国の78.1%より低い。(28)

《改善に向けて》

◎個人について

自分には、よいところがあると答えた児童の割合が全国よりも高く、前向きに生活している児童が多いことがうかがえる。また、基本的な生活習慣についてもおおむね良好である。一方で、いじめはどんな理由があてもいけないことだと思ふ、と答えた児童の割合が全国よりも低く、規範意識に若干の課題が見られる。また、先生に認められていると感じている児童の割合が全国に比べ低く、他者と関わり互いに認め合うことを通して、規範意識や思いやりの意識をもてるようにすることが大切である。

◎学校生活について

自分の考えをまとめたり、発表したりする活動が充実していると考えられる。一方で、学級活動や道徳の授業等で、自分自身について考えさせたり、学級について考えたり活動が少ないことが課題である。教科の授業で学んだことを、自分自身のことや、自分が所属する集団のこと等に置き換えて、考えることができるようにすることが大切である。

◎家庭生活について

学校の授業時間以外に学習している時間が多く、学習習慣は良好である。また、学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていると答えた児童の割合が全国よりも高い。一方で、学校の授業以外に学習していない児童も一定数いるため、授業の中で、学習の仕方等を身に付け、自分で学習できるようにすることが大切である。

◎地域生活について

地域の行事に参加していると答えた児童の割合が全国よりも低い。授業の中で、地域について扱う活動を充実させるなど、地域社会との関わりやつながりを増やしていくことが大切である。

【生徒質問紙 中学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

◇自分には、良いところがあると思いますかという質問に当てはまると答えた生徒の割合は 46.7%で全国の 37.2%より高い。(4)

◎学校生活について

◇学校の部活動に参加していると答えた生徒の割合は 89.7%で、全国の 81.8%より高い。(25)

◇1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたかという質問に、ほぼ毎日と答えた生徒の割合は 46.2%で、全国の 28.1%より高い。(33)

◇1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたかという質問に、発表していたと答えた生徒の割合は 35.4%で、全国の 21.9%より高い。(36)

◇1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたと答えた生徒の割合は 74.7%で、全国の 69.1%より高い。(38)

◇総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答えた生徒の割合は 85.5%で、全国の 72.6%より高い。(43)

◇国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていると答えた生徒の割合は 75.4%で、全国の 63.9%より高い。(53)

◇1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思うと答えた生徒の割合は 68.9%で、全国の 63.8%より高い。(68)

◇1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思うと答えた生徒の割合は 87.8%で、全国の 78.7%より高い。(69)

◆先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますかという質問に、当てはまると答えた生徒の割合は 37.2%で、全国の 43.7%より低い。(6)

◆困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答えた生徒の割合は 59.3%で、全国の 66.4%より低い。(10)

◎家庭生活について

◇学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますかという質問に、2時間以上と答えた生徒の割合は 51.6%で、全国の 33.7%より高い。(17)

◇土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますかという質問に、3時間以上と答えた生徒の割合は 25.0%で、全国の 18.3%より高い。(18)

◇あなたの家には、およそどれくらいの本がありますかという質問に、101冊以上と答えた生徒の割合は 48.0%で、全国の 32.7%より高い。(22)

◇これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあったと答えた生徒

の割合は 37.2%で、全国の 30.0%より高い。(64)

◎地域生活について

◆今住んでいる地域の行事に参加していると答えた生徒の割合は 30.0%で、全国の 38.0%より低い。(29)

《改善に向けて》

◎個人について

自分には、よいところがあると答えた生徒の割合が全国よりも高く、前向きに生活している生徒が多いことがうかがえる。また、基本的な生活習慣についてもおおむね良好である。引き続き、家庭、学校、地域の様々な活動や体験の中で、自己肯定感を高めていきたい。

◎学校生活について

自分の考えをまとめたり、発表したりする活動が充実していると考えられる。また、ICT 機器の活用については全国に比べてかなり進んでいる様子が見られる。一方で、困りごとや不安がある時に、学校内で相談できる体制づくりに課題があると捉えられる。気軽に相談できる環境を整えていくことが大切である。

◎家庭生活について

学校の授業時間以外に学習している時間が多く、学習習慣は良好である。日常的に英語を使う機会が十分にあったと答えた生徒の割合が全国よりも高い。就寝時間については、日によって異なる生徒の割合が全国よりも高く、家庭での生活習慣が不規則になっていることが伺える。体調や健康を第一にした教育活動が大切である。

◎地域生活について

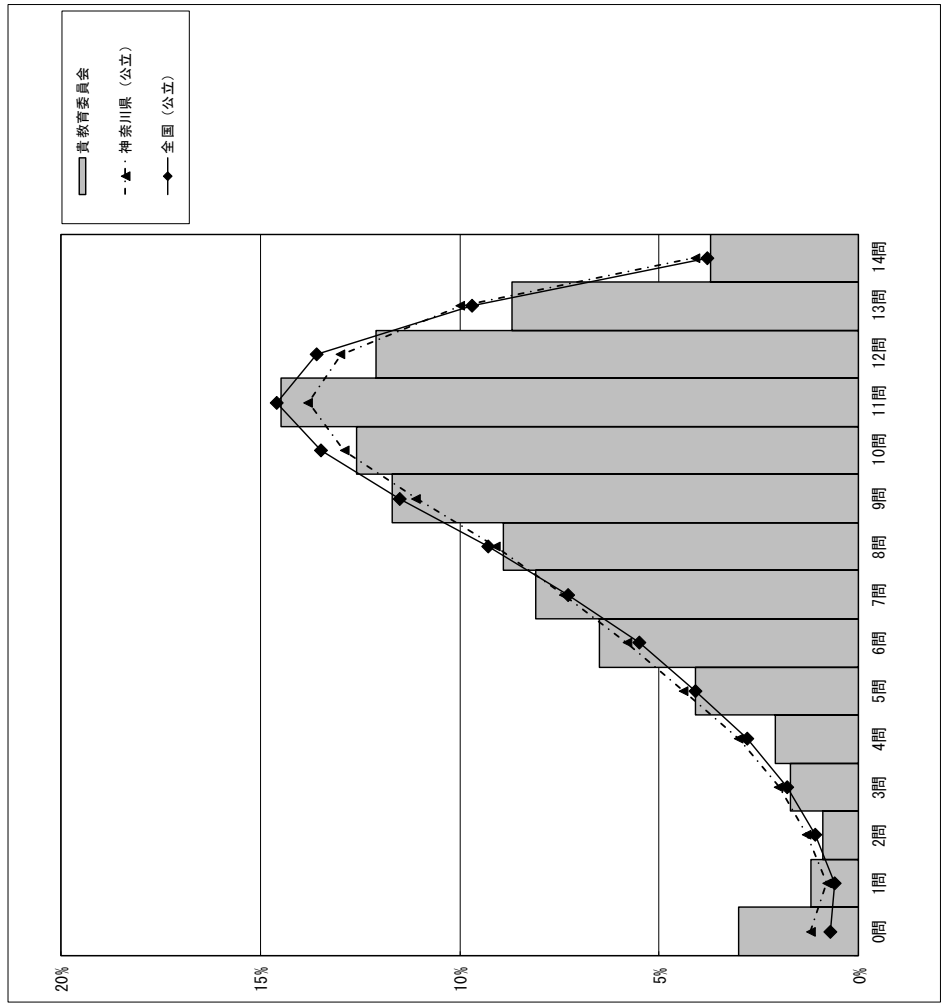
地域の行事に参加していると答えた生徒の割合が全国よりも低い。授業の中で、地域について扱う活動を充実させるなど、地域社会との関わりやつながりを増やしていくことが大切である。

令和5年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語]
鎌倉市教育委員会－児童

以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,210	9.1 / 14	65	10.0	3.2
神奈川県 (公立)	68,738	9.3 / 14	66	10.0	3.1
全国 (公立)	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数 縦軸：割合)



正答数	児童数			割合(%)		
	鎌倉市教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	鎌倉市教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
14問	45	3.7	4.1	3.8		
13問	105	8.7	10.0	9.7		
12問	146	12.1	13.0	13.6		
11問	176	14.5	13.8	14.6		
10問	153	12.6	12.9	13.5		
9問	142	11.7	11.1	11.5		
8問	108	8.9	9.1	9.3		
7問	98	8.1	7.4	7.3		
6問	79	6.5	5.8	5.5		
5問	50	4.1	4.4	4.1		
4問	26	2.1	3.0	2.8		
3問	21	1.7	2.0	1.8		
2問	11	0.9	1.3	1.1		
1問	14	1.2	0.8	0.6		
0問	36	3.0	1.2	0.7		

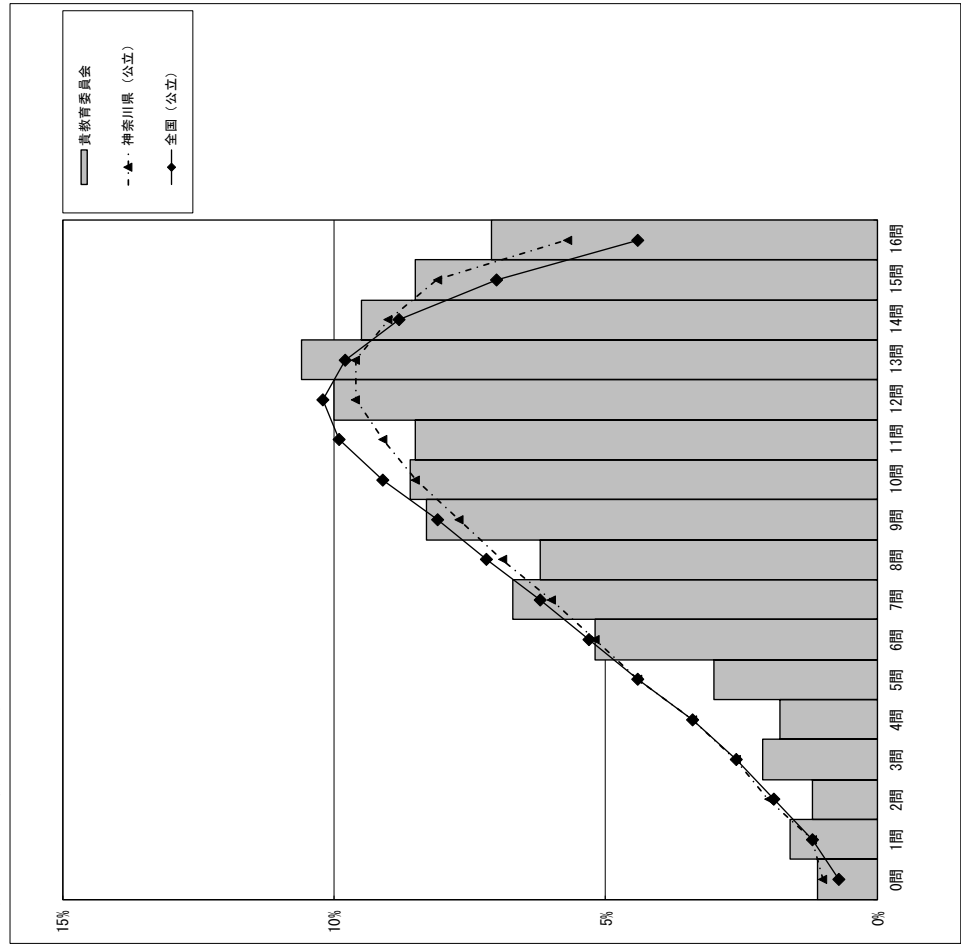
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	鎌倉市教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	8.0問

・以下の集計値/グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,210	10.5 / 16	65	11.0	3.8
神奈川県(公立)	68,739	10.1 / 16	63	11.0	3.9
全国(公立)	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数	児童数 委員会 (公立)	割合(%)		
		委員会 (公立)	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
16問	86	7.1	5.7	4.4
15問	103	8.5	8.1	7.0
14問	115	9.5	9.0	8.8
13問	128	10.6	9.6	9.8
12問	121	10.0	9.6	10.2
11問	103	8.5	9.1	9.9
10問	104	8.6	8.5	9.1
9問	100	8.3	7.7	8.1
8問	75	6.2	6.9	7.2
7問	81	6.7	6.0	6.2
6問	63	5.2	5.2	5.3
5問	36	3.0	4.4	4.4
4問	22	1.8	3.4	3.4
3問	26	2.1	2.6	2.6
2問	15	1.2	2.0	1.9
1問	19	1.6	1.2	1.2
0問	13	1.1	1.0	0.7

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

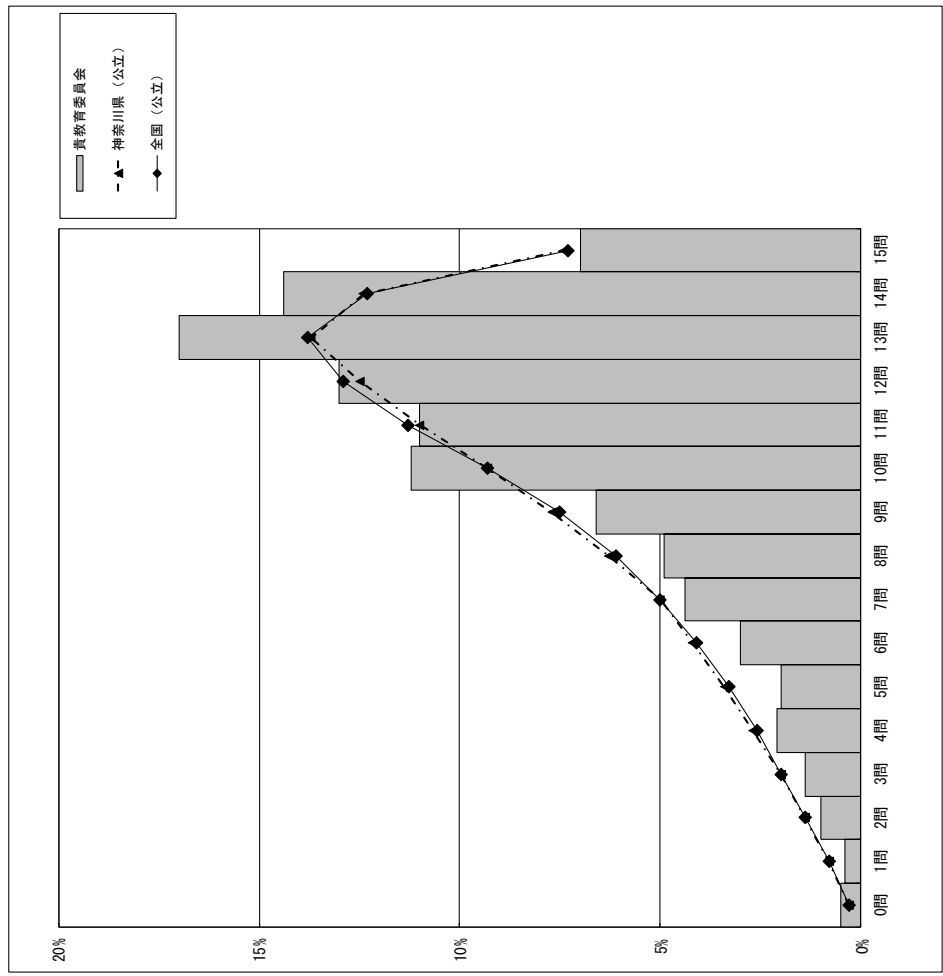
	委員会 (公立)	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	14.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問	7.0問

令和5年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語]
鎌倉市教育委員会一生涯

以下の集計値/グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,025	10.9 / 15	73	12.0	3.2
神奈川県 (公立)	60,261	10.4 / 15	70	11.0	3.4
全国 (公立)	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

正答数分布グラフ (横軸：正答数 縦軸：割合)



正答数	正答数集計値		
	生徒数 教育委員会	割合(%) 神奈川県 (公立)	全国 (公立)
15問	72	7.0	7.4
14問	148	14.4	12.4
13問	174	17.0	13.7
12問	133	13.0	12.5
11問	113	11.0	11.0
10問	115	11.2	9.3
9問	68	6.6	7.7
8問	50	4.9	6.3
7問	45	4.4	5.0
6問	31	3.0	4.2
5問	21	2.0	3.4
4問	22	2.1	2.7
3問	14	1.4	2.0
2問	10	1.0	1.4
1問	4	0.4	0.8
0問	5	0.5	0.3

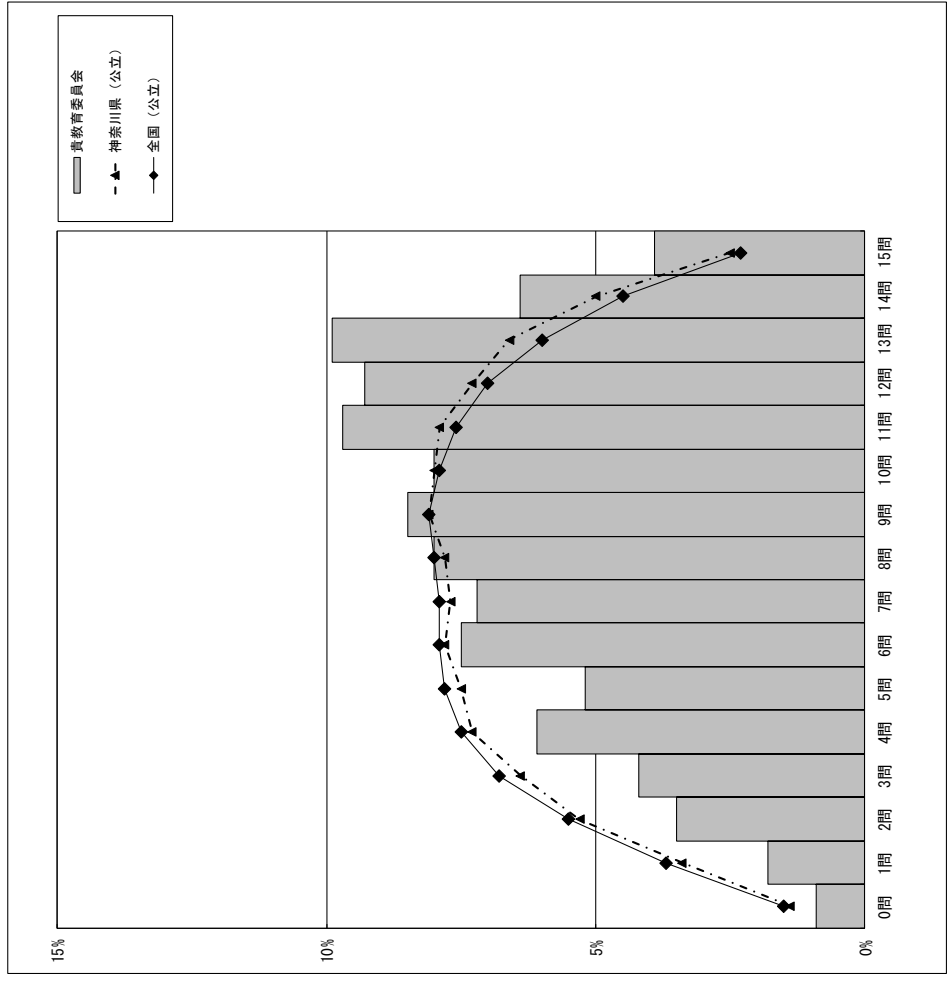
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	12.0問	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	9.0問	8.0問	8.0問

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,025	8.8 / 15	59	9.0	3.8
神奈川県 (公立)	60,302	7.8 / 15	52	8.0	3.9
全国 (公立)	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数 縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数 県教育委員会	割合 (%) 神奈川県 (公立)	割合 (%) 県教育委員会	割合 (%) 全国 (公立)
15問	40	3.9	2.5	2.3
14問	66	6.4	5.0	4.5
13問	101	9.9	6.6	6.0
12問	95	9.3	7.3	7.0
11問	99	9.7	7.9	7.6
10問	82	8.0	8.0	7.9
9問	87	8.5	8.1	8.1
8問	82	8.0	7.8	8.0
7問	74	7.2	7.7	7.9
6問	77	7.5	7.8	7.9
5問	53	5.2	7.5	7.8
4問	63	6.1	7.3	7.5
3問	43	4.2	6.4	6.8
2問	36	3.5	5.3	5.5
1問	18	1.8	3.4	3.7
0問	9	0.9	1.4	1.5

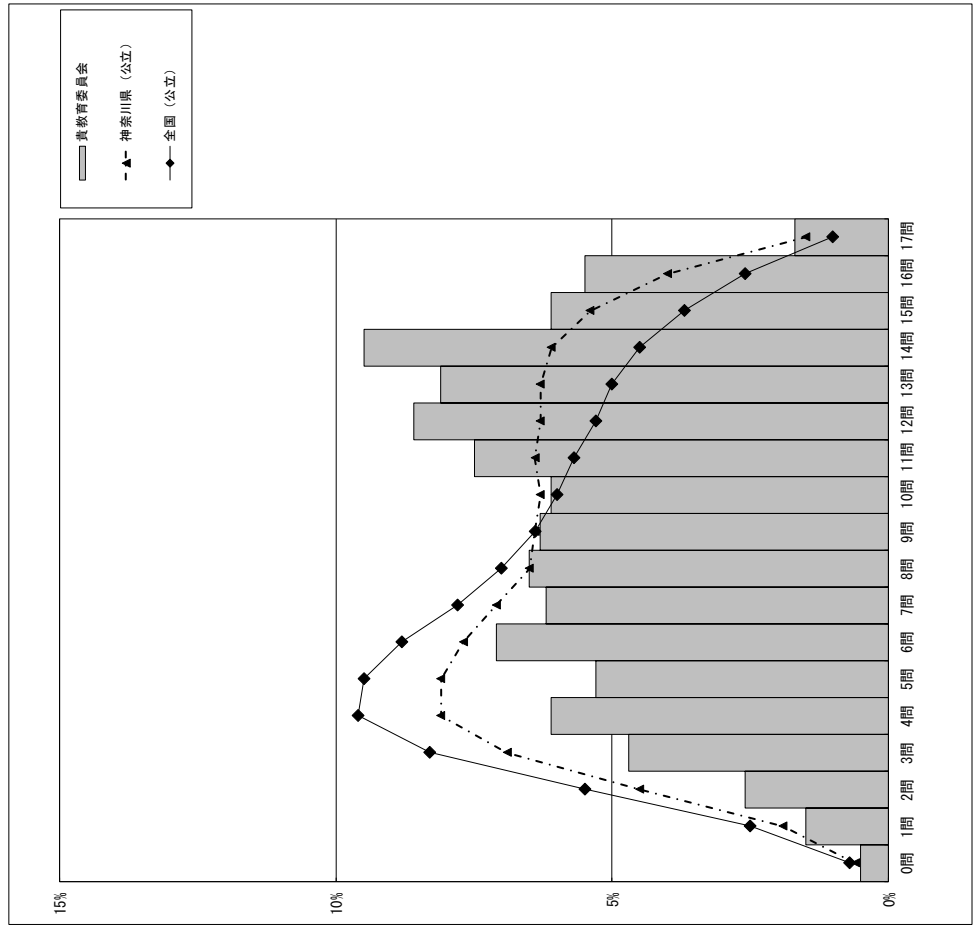
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	県教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	6.0問	5.0問	4.0問

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,025	9.6 / 17	56	10.0	4.2
神奈川県 (公立)	60,318	8.6 / 17	50	8.0	4.3
全国 (公立)	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

正答数分布グラフ (横軸：正答数 縦軸：割合)



正答数	生徒数 貴教育 委員会	割合 (%)		
		貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
17問	17	1.7	1.5	1.0
16問	56	5.5	4.0	2.6
15問	63	6.1	5.4	3.7
14問	97	9.5	6.1	4.5
13問	83	8.1	6.3	5.0
12問	88	8.6	6.3	5.3
11問	77	7.5	6.4	5.7
10問	63	6.1	6.3	6.0
9問	65	6.3	6.4	6.4
8問	67	6.5	6.5	7.0
7問	64	6.2	7.1	7.8
6問	73	7.1	7.7	8.8
5問	54	5.3	8.1	9.5
4問	63	6.1	8.1	9.6
3問	48	4.7	6.9	8.3
2問	27	2.6	4.5	5.5
1問	15	1.5	1.9	2.5
0問	5	0.5	0.6	0.7

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

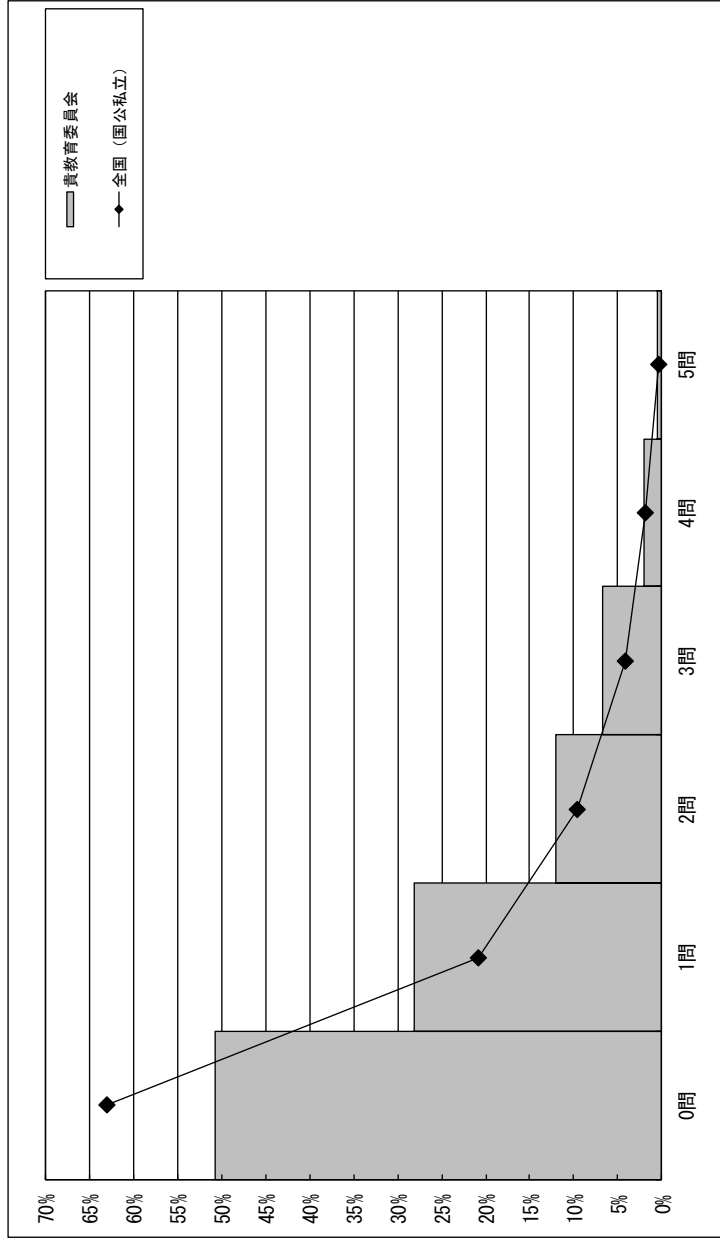
	貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	13.0問	12.0問	11.0問
◇ 第2四分位	10.0問	8.0問	7.0問
▽ 第1四分位	6.0問	5.0問	4.0問

令和5年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [英語「話すこと」] ※当日・期間内実施合算
鎌倉市教育委員会－生徒

・以下の集計値／グラフは、4月18日以降5月26日までに実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
(* がついているところは「全国（国公立）」の値は、実施状況等を考慮した統計的補正をかけ、全国値として推定されたもの。)

	生徒数	平均正答数*	平均正答率(%)*	中央値*	標準偏差*
鎌倉市教育委員会	644	0.8 / 5	16	0.0	1.1
全国 (国公立)	814,666	0.6 / 5	12.4	0.0	1.0

正答数分布グラフ (横軸：正答数 縦軸：割合) *



正答数	正答数集計値	
	生徒数 貴教育委員会	割合 (%) * 貴教育委員会 全国 (国公立)
5問	3	0.5 0.4
4問	13	2.0 1.8
3問	43	6.7 4.2
2問	77	12.0 9.6
1問	181	28.1 20.9
0問	327	50.8 63.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。*

	貴教育委員会	全国 (国公立)
△ 第3四分位	1.0問	0問
◇ 第2四分位	0.0問	0問
▽ 第1四分位	0.0問	0問